



武田正樹議員

## 米粉用米の作付けに市独自助成ができないか

問

水田フル活用について尋ねる。

(1) 概要

(2) 生産調整対策(米の過剰生産を防ぐ政策)は水田フル活用でどう変化しているのか。

(3) 秋田県は、米粉用米と飼料用米の作付けに、10a当たり3万円を助成している。

現在、市は麦、大豆の作付け10a当たり1万円の独自助成をしている。米粉用米に同程度の助成ができるか。

今ある制度で慎重に検討したい

答 開発部長

(1) 国策で自給率向上や耕作放棄地を無くすため、米、

麦、大豆のほかに、飼料用作物、米粉用米を作付けする定義付けをしている。

(2) 生産調整の面積は昨年と同様である。

飼料用作物、米粉で(水田を)利用する場合の対応はJA、県と協議し、4月の水田農業推進協議会で調整をしたい。

(3) 米粉、飼料用作物も含め、今現在ある制度の中で慎重に検討していきたい。

米粉パンを給食で使ってはどうか

問

学校給食について尋ねる。

(1) 国の調査によると、19

年度の米飯給食は週3回で、地場産食材の使用は平均23・3%であるが、市の割

合は。

(2) 米飯給食を週4回にすることはできないか。

(3) 食材として、地元の米粉でパン、ケーキ、ピザ、お菓子、ギョウザ等を使うことを考えてはどうか。

安全、安心で、食育の面からもよいのではないか。

コストも見極めなければならぬ

答 教育課長

答 市長

(1) 1月調査で、県内産(市内産を含む)は43%である。

(2) 市は3.5回であり、これを新たに増やすことは現在は考えていない。

(3) 食はいかに大量につくることがコストの削減につながるが、米粉パンはまだ非常に高いコスト(給食の小麦粉パンの約2倍強)になっている。

米粉パンに対するコストも見極めていかなければならないと思う。

